

歩いて暮らせるまちづくり（福島地区）社会実験 まち歩きアンケート結果について

平成 20 年 1 月 22 日
福島県商業まちづくりグループ

調査概要

本調査は、福祉及びユニバーサルデザイン（以下「UD」とする。）等の視点を新しいまちづくりに生かすため、平成 19 年度「歩いて暮らせるまちづくり福島地区社会実験（平成 19 年 10 月 20 日～11 月 18 日）」で「まち歩き」を体験した方々にアンケート調査を実施した。

調査方法

下記 10 団体に社会実験期間中の「まち歩き」の呼びかけを依頼し、体験された方に後日、団体を通じてアンケート用紙を配布・回収した。

（協力団体）NPO法人 ユニバーサルデザイン・結（ゆい）、NPO法人 シャローム、
（財）福島県身体障害者福祉協会、福島市盲人協会、福島県難病連絡協議会、
（社）日本筋ジストロフィー協会福島県支部、（社）福島県建築士会福島支部女性委員会、
合同会社 楽膳、障がい者コミュニティサロン まちなか夢工房

調査内容

アンケート用紙（p9）のとおり

調査結果

「まち歩き」に協力いただいた 10 名から回答を得た。

回答者には、障がい者に加え福祉又はUD分野の普及等に取り組んでいる団体の方も含む。

また、属性未記入者（1 名）は、問 1 の集計から除外した（問 2 以降は採用）。

問 1 回答者の属性について（回答数：9）

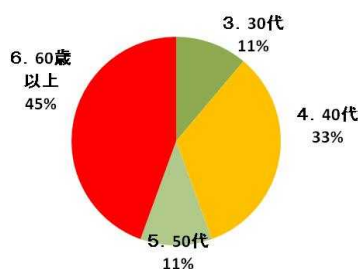
回答者の年齢は 30 代以上であり、うち「6. 60 歳以上」が 45%であった。また、性別は、「2. 女性」が 67%であり、「1. 男性」33%はすべて 60 歳以上（3 人）であった。

職業は、「3. 主婦」「4. 自営業・会社役員」「5. 会社員」「9. 無職」が 22%ずつとなっている。居住地は、「1. 市内」が 78%となり、うち「市内（郊外部）」が 56%となっている。

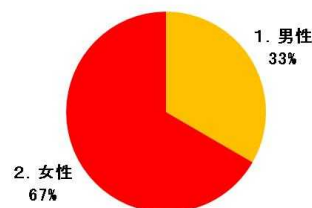
まちなかへくるための主な交通手段は、「1. 自動車（運転）」が 45%となっており、「2. 自動車（送迎）」が 22%となっており、「2. 自動車（送迎）」や「4. 路線バス」「7. 福祉タクシー」等、他に依存する交通が 44%、徒歩が 11%ある。

普段の買い物は、郊外の大型店が 45%、街なかでの買い物が商店街と大型店を合わせて 22%となっている。

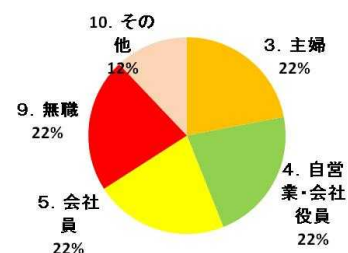
年齢



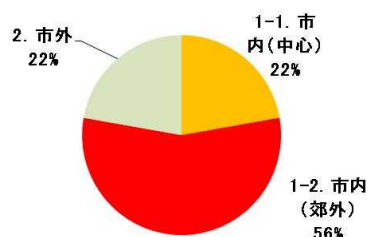
性別



職業



居住地



主な交通手段



普段の買い物(日用品)



まちなかに来る目的は、「3. 飲食」が25%、「4. 映画・音楽鑑賞」が19%となっており、ついで「5. イベントや祭り」「15. その他(講演会の聴講)」「1. 日常の買い物」「2. 服・家電等の買い物」「9. 趣味・習い事」等を目的に来街している。

まちなかに来る目的 (各自2つまで回答可。回答数:16)



問2 社会実験での取り組みについて

(問2-1) 参加したメニューについて

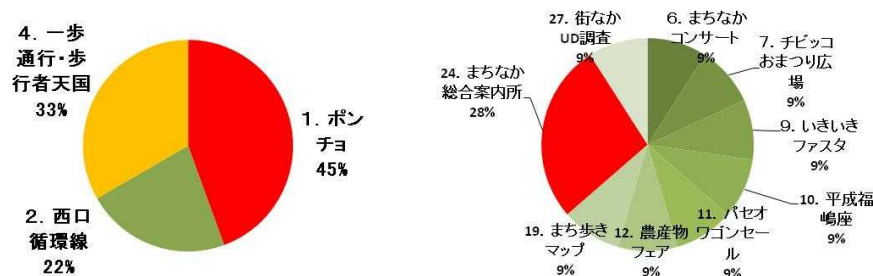
ここでは、回答者が街歩き時に参加した実験メニューを示す。

交通実験では、「1. まちなか循環線(ポンチョ)」の体験乗車が45%、「2. 西口循環線」が22%となり、バス関連が合わせて67%であった。

賑わい創出実験では、「24. まちなか総合案内所」が28%と関心が高かった。

また、「6. まちなかコンサート」「7. チビッコおまつり広場」「9. いきいきふくしま元気UPファスタ2007」「10. 平成福嶋座」「11. パセオワゴンセール」「12. 農産物フェア」「19. まち歩きマップ」「27. 街なかUD調査」に興味を持ちまち歩き体験をした。

回答にあった「27. 街なかUD調査」は、体験者の「まち歩き体験」を指すと考える。



(問2-2) 「こらんしょまちなか！」での取り組みについて

まちなか総合案内所のお手伝い。

総合案内所の展示等にかかわった。

まちなか循環バス「ポンチョ」の試乗。

問3 福島市のまちなかについて

(問3 - 1) 道路に関すること(回答数: 16)【自由記述】

歩行者の視点から歩道に関する歩行環境についての意見が多く、安全性及び快適性に分類した。

安全性については、自転車に対し危険性を感じていることが分かる。

また歩道の段差・横断勾配など、道路構造に関する意見があった。

快適性については、アーケードや地下道に関する意見や、自転車の置き方や景観に関する意見もあり、特に、「ひとやすみスポットが欲しい」や「歩道にベンチがあるのは良かった」等、社会実験で取り組んだまち歩きのための休憩スペース、ベンチに対する意見があった。

<回答者の意見>

安全性	自転車専用道の表示を願います。ドライバーも歩行者もまちのお客様です。
	歩道は狭い。歩道、車道、自転車道を区別する必要がある。
	歩道は自転車を押して歩いてほしい。ベビーカーで安心して歩ける歩道であって欲しい。
	歩道の水勾配がきつい。滑って危ないと感じる。
	歩道と車道の上に段差があり車いすでは歩きにくい。
	駅前通り等に段差があって、障がいを持っていると利用しにくい。
快適性	アーケードが途中ないので、雨の時に車いすでは濡れてしまう。冬季間は雪で出掛けにくい。
	地下道には動く歩道が欲しい。
	自転車の置き方が悪く歩きにくいところがあった。
	美しい歩道がない。パセオは改善されてきているようなので今後も魅力アップしていくことに期待している。他の歩道も安全性、美しさへの見直しが必要である。
	歩道にちょっと立ち止まれる"ひとやすみ"のスポットが欲しい。
	歩道にベンチがあるのは良かった。

（問3 - 2）バスに関すること（回答数：13）【自由記述】

バスに関する主な意見については、路線、バスの構造、バス停、全般の項目に分類した。

路線については、社会実験で走行した福島駅西口と東口を結ぶルートや郊外路線への意見があった。

バスの構造については、安全性に関する意見があったほか、社会実験で走行した「まちなか循環バス」については、「乗りやすい感じ」「小型で乗客の顔が見れることが良かった」等の意見があった。

バス停については、既存バス停の段差やアクセスに対する指摘があった。

また、社会実験で設置した臨時停留所などは、段差がないことが評価を得ていた。

バス全般については、「高齢者も安心して外出できる」等、低床式バスへの評価があった。

また、社会実験の取り組み方法についても意見が示され、高齢者や障がい者を対象とした利用促進に向け、課題が指摘された。

< 回答者の意見 >

路線	西口・東口の周回が欲しい（料金は50円で30分ごとに）。
	中心地はバスが走っているが、郊外には走っていないので全く乗れない。
バスの構造	バスは安全でない。
	「まちなか循環バス」は、乗りやすい感じがした。
	「まちなか循環バス」は、小型で乗り合わせている人々の顔が見えることも良かった。
	バスの乗降口の段差解消プレートが自動で出るものが良い。
バス停	（一般のバスに対して）低床式バスは安全で便利だが、バス乗り場には歩道と車道の間に段差があるので車いすの利用ができない。バスを利用するところまで行くのが大変。車いすで気軽に出かけることができない。
	「まちなか循環バス」は、バス乗り場も段差がなくて良かった。
全般	低床式バスは絶対必要。高齢者も安心して外出できる。
	障がいがあるので、普段のバスにはほとんど乗ったことはない。
	日常でバスを利用することがほとんどない。 今後あらゆる人が安全で快適に利用できるバスの導入を望む。
	よく車椅子マークのついたバスや、低床バスの表示や広く扉の開くタイプのバスを見ますが、残念ながら利用しているところを見たことがありません。 例えば、養護学校の生徒を体験乗車させるなど、利用促進につなげる体験検証を、バス会社の人を巻き込んでやってみてはどうでしょうか？せっかくの社会実験なのですから、サービスを提供する側の体験にもつなげてほしいと思います。

(問3-3) 公共施設、休憩所、トイレ、建物等に関すること(回答数:18)

公共施設等については、全般及び広報・案内、まちなか総合案内所、トイレに分類した。

公共施設は、施設への入口の坂や段差に関する意見があった。また、施設の設備が分かりにくいなど、市民が安心して訪れるためには、事前に建物の設備(トイレや構造など)等が分かるような広報・案内への提案があった。

まちなか総合案内所は、高齢者向けサロンの提案や、「市民交流や情報発信の拠点として必要」との意見があった。

トイレについては、一番意見があり関心が高いことが分かる。特にまちなかで利用できるトイレの位置や設備についての情報提供について指摘があった。

<回答者の意見>

全般	以前に比べ車いす利用の施設は増えているが、入口が坂になってたり段差があり入りにくいところもある。
広報・案内	入口、案内板、休憩所、トイレなどの表示がはっきりしていないので利用しづらい。
	それぞれの場所で、どのような設備がなされているか分かるようなパンフレット等があると良い。
	イベント等を知らせる文書、チラシ、掲示等に会場の設備等についても添え書きしていると大変助かります(和室・畳か洋室か、洋式トイレの有無等)。
まちなか総合案内所	キッズばかりでなく、高齢者も立ち寄れる無料のサロンがあったら良いと思った。
	雨宿りや冬季に暖のとれる、そんなサロンがあったらいいのにと考えた。もちろんそこには快適なトイレがあったら待ち合わせの場所になったり、サークルの情報交換の場になったり、作品の発表の場になったり、イベントやお店、史跡名所の情報があつたり、そんなサロンがあったらいいのにと考えます。
	まちなか総合案内所は、ゆっくりのんびりできる空間や雰囲気大切であるが、現実まちなか利用しづらい。
	まちなかで困った時に手を貸してもらえる場所や案内所があれば安心して出かけられる。
トイレ	店頭でトイレ案内のあるところがない。
	安心して散策するには、まちなかにトイレが必要。
	トイレの情報は少ない。また、公共施設等でも案内板が不親切なことが多く、障がい者がまちなかへ出てくることをためらうのではないかと思う。
	トイレ利用は(障がい者も)高齢者も同じ。
	UDトイレの設置をお願いする(須賀川市のPRは上手)。
	言い方として「車椅子トイレ」を「UDトイレ」に統一してはどうか。
	民間施設は、利用しやすさ、清潔感を維持するにあたり、昔に比べ配慮されていると感じた。市や公共施設は設備が更新されていない箇所も多く、多目的トイレ等は本来の目的と違う利用のされ方をしているところもあり、維持管理についてのシステムづくりが急務であると思った。
	公共のトイレの場所がわからない。市政だよりで知らせてはどうか。
	公衆用トイレが汚い。
	駅のトイレが遠くて利用しにくい。
デパートでも障がい者用トイレは3階や6階と遠いところにある。その他のトイレは様式でないため利用できない。ウィズ本町は日曜日に開放していますか? 入口に段差があるので足が不自由なので入りにくい。	

(問3 - 4) その他、イベントやまちづくりに関すること (回答数: 16)

その他については、記載のあった内容を、賑わい創出イベント、広報、駐車場、まちづくりに分類した。

賑わい創出イベントは、まちなかへの集客に効果があると評価する一方、進め方については騒音などの問題、子どもや高齢者をターゲットにすること、それぞれのイベントを支え合うシステムづくり、持続していきたいという意識づくりについての意見があった。

広報については、イベント等については早めの告知が必要なことや、分かりやすい広報、情報発信のあり方についての提案があった。

まちづくりについては、市民ニーズの反映や線から面へのまちづくりの広がり、ターゲットに関すること、平日の取り組み等、今後のまちづくりの課題についても意見があった。

また、昔の雰囲気やまちなみが良いなどの提案があった。

<回答者の意見>

賑わい創出 イベント	イベントはまちなか集客には有効な手段。しかし、騒音等迷惑を被る人もいることを今回の実験で感じた。
	毎月、子どもや高齢者をターゲットにしたイベントを開催することを約束してはどうでしょうか。こむこむの企画イベント力はすごいと感心していますが、駅のこむこむの一極集中では人は動きません。あんなイベントがまちなかで繰り広げたらいいと思います。
	イベントをそれぞれに開催するだけでは発展性がない。お互いのイベントを支え合うシステムづくりが大切だと思う。人と人が支え合える関係や相互理解がまちなかを活性化していくと思う。
	イベントの開催で、市民がまちの魅力に気づき、それを持続していきたいという意識づくりを、今後も積極的に続けていくべきと思う。
	ワゴンセールの商品は安値であったが魅力のあるものはなかった。 安さだけでなく、客のニーズにこたえられるものがあれば良かったと思う。店によっては売れ残りの商品の陳列と思われるものもあった。
広報	広報が不十分。開催間際に分かったがもっと早くからの周知が必要と思う。
	まちなかの様子が手に取るように分かるような資料、案内、情報発信、人々のつながりがあることが望ましい。
	催しには音による盛り上げも大事なので、チンドン屋などの参加もあれば良かったのではないかな。
駐車場	まちなかの駐車場には車いす用の駐車スペースが確保されていないので利用しづらい。
まちづくり	様々な人がまちなかにきて歩けるようにするのは当たり前のこと。今後のこのような取り組みを続けてほしい。市民ニーズを反映させてほしい。急務です。
	駅前とまちなか広場は賑わっていたが、他は静かすぎる。
	マンションができています。このチャンスを逃さないでほしい。
	土日だけでなく平日の取り組みが鍵です。
	まちなか居住者の外出と買い物に注目してはどうか。 オールラウンドの施策よりも中高齢者及び障がい者にターゲットを絞ってはどうか。
明治から昭和にかけての雰囲気のあるまちづくりはどうでしょうか。まちも人も大正口マンに憧れます。	

その他

ここでは、10月20日(土)に実施した聞き取り調査の結果を示す。

(1) 場所：障がい者コミュニティサロン まちなか夢工房(パセオ通り)

(2) 対象：まち歩き体験をした方(4名)

(3) 聞き取り結果：

まちなかサポーターについて

初めて自分で駅前通りなどまちなかを歩いた。

お互い(サポートをする側。受ける側。)慣れていないので緊張した。話かけてくれると緊張もなくなる。

何と呼んでよいか分からなかった。はじめに自己紹介してくれると良い【改善】

サポーターにネームプレートがあると良い。(ニックネームでもよい)呼び名を教えると良い【改善】

杖を突く側にガイドがつくと、自由に突けなくなるので、歩きにくい。杖の逆に立ってほしい。

(転んだ時の対処法)助ける方法(どこを支えてほしいか、どのように手を貸して欲しいか)を聞いてほしい。

大変だったが非常に楽しかった。また来たい。

以上については、伝達して改善を図った。

トイレについて

(社会実験の)チラシに車椅子の利用ができるかが書いてないので、行ってみることができない。

他は、建物の設備がわからないので、いつも利用しているところしか行けない。

広報について

社会実験についての広報が不十分かと思う。もっと早くからイベントの情報を教えてほしかった。

まちなかへのアクセス

普段は、自家用車で送迎や福祉系のタクシー(小型のバン)を利用している。

普通の乗り物(鉄道・バス・タクシー等)は利用しにくい。

まちなかは、行きたい店の前に乗り降りの場所がないので苦労する。

イベントについて

また、まちなかに来てみたい。

イベントなどあったらお声掛けを頂きたい。

まとめ（今後のまちづくりに向けて）

それぞれの項目について、下記に整理しながら今後のまちづくりについて考察する。

（１）道路やバスについて

まち歩きには、誰でも快適に移動できる歩行環境（空間）の整備やまちなか循環バスや自転車等の補助的な足があると便利であり、道路やバスについては、高齢者や子ども、障がい者も使いやすい構造にする等はもちろん、実際に使える環境にあるか、使いやすいかが重要である。今回の調査では、道路やバスについて安全や快適さについて具体的な意見があった。

道路については、車いすや歩行時に杖を利用する方にとって、歩道の横断勾配やちょっとした段差が相当歩きにくいことが指摘され、自転車との混在が特に危険に感じていることも示された。また、「バス停まで行くのが大変」という指摘や車道と歩道の段差によりバスが利用できないなど、新たな問題点も提起された。

歩行環境については、「歩道にちょっと立ち止まれる”ひとやすみ”のスポットが欲しい」等の意見もあり、また社会実験で取り組んだベンチ等の設置についても評価された。

今後、「人」中心のまちづくりを考えた場合、人が歩くことは勿論、立ち止まって休む等、障がい者や高齢者等が歩きやすい歩行環境についても考えていく必要がある。

バスについては、西口と東口を結ぶルートの提案があり、思った以上に駅の東西連絡の抵抗があると感じた。

社会実験の結果や東西通路の利用状況をさらに分析し、街なかの交通機能として「まちなか循環バス」が必要かどうか等についても検討が必要と考えられる。

また、バスの車椅子利用は補助が必要となり、構造的な改善（車いす可、出入口が広い、低床式等）とともに、運転手がスムーズに補助できるか、同乗者は乗降にかかる時間や補助に対して協力できるか等環境整備が必要である。今回のアンケートでは、バス停までのアクセスの問題や乗降に対する安全・安心、まちへ出かけることに気が引けるなど、利用する環境整備が整っていないことや、バスに対するPR不足等の指摘があった。

バスの利用しやすい環境整備は、バスを運行する事業者だけの問題ではなく、市民や行政の協力・支援が必要である。

（２）公共施設、トイレ等について

公共施設やトイレについては、市民が安心してまち歩きをするために必須の施設として、関心が高く、利用できるトイレの位置情報や設備仕様についての意見が多かった。

トイレについては、公共施設に民間トイレを含めたネットワークを構築することは勿論、適正な維持管理（清掃等）やMAP・案内板等による分かりやすさや、行くまでのアクセスとして建物構造や入口の段差、傾斜（勾配）など、利用者の立場に立った情報提供が必要である。

（３）イベントやまちづくりについて

賑わい創出イベントは、まちなかへ人を集める手段として有効であるとの意見を得た。また、実施にあたっての騒音や開催頻度、ネットワークづくりが必要なこと等今後の取り組みに向けた前向きな意見をいただいた。

広報については、「不十分」との意見や「分かりにくい」との指摘を受けたが、まちなかの複合チラシやまちなか案内板など、効率的で効果的な広報の在り方について考えていく必要がある。

まちづくりについては、「ターゲットを絞ってはどうか」「平日の取り組みが鍵」「大正ロマンがいいなど」等様々な問題を提起された。

今回の調査は、車椅子利用者や肢体不自由者、視覚障がい者等さまざまな障がいを持つ方々、福祉やUDに関わっている方々に参加いただいた。調査を実施して、参加された方々のイベントに参加する意欲、物事に取組むひたむきな姿勢、具体的な意見、まちに対する思いなど、普段では気付かない視点での問題・課題を知ることができた。

今後、本格的な高齢社会を迎えるに当たりバリアフリーからUDのまちづくりが当たり前前に普及するまちづくりを進めていかなければならないと感じた。

「こらんしょ まちなか！」まち歩きアンケート調査

本調査は、皆様の声をまちなかの賑わいづくりや交通の便利さについて将来のまちづくりに活用するために実施するアンケートです。ご協力をお願いします。

本アンケートの「まちなか」は、福島駅を中心とする社会実験エリアです。

問1．あなたについて教えてください。 該当するものにつけてください。

年齢

- 1) 10代 2) 20代 3) 30代 4) 40代 5) 50代 6) 60歳以上

性別

- 1) 男性 2) 女性

職業

- 1) 中・高校生 2) 大学・専門学校生 3) 主婦(夫) 4) 自営業・会社役員
5) 会社員 6) 公務員 7) 団体職員 8) アルバイト・パート 9) 無職
10) その他

居住地

- 1) 市内(中心部 ・ 郊外部) 2) 市外(市・町・村)

あなたがまちなかにくるための、主な交通手段は何ですか？ ひとつにつけてください。

- 1) 自動車(運転) 2) 自動車(送迎) 3) 鉄道 4) バス(循環・路線)
5) 病院・福祉施設等の送迎バス 6) 普通タクシー 7) 福祉系タクシー
8) バイク 9) 徒歩 10) 自転車 11) その他【.....】

普段(日常)の買い物は、どこに行きますか？ ひとつにつけてください。

- 1) まちなかにある商店街(専門店等)
2) まちなかにある大型店舗(デパートやスーパー等)
3) 家の近くの商店街 4) 家の近くのスーパー
5) 郊外の大型店 6) その他具体的にお書き下さい。【.....】

まちなかにくる目的は何ですか？ 近いもの2つに付けてください。

普段まちなかに来られない方もお答えください。

- 1) 日常的な買物(食品・日用品など) 2) 服や家電等の買物
3) 飲食 4) 映画・音楽鑑賞 5) イベント・祭りの見物 6) スポーツ
7) カラオケ・ゲーム・パチンコ等 8) 理容・美容 9) 趣味・習い事
10) 通勤 11) 通学 12) 通院 13) 仕事・ビジネス 14) 散歩
15) その他 具体にお書き下さい【.....】
16) まちなかには来る目的がない

次のページも、ご協力下さい。

問2. 「こらんしょまちなか! (歩いて暮らせるまちづくり社会実験・10/20~11/18)での取り組みについて、感想・ご意見をお書きください。来街日時も記入願います。

問2-1. 参加したメニューすべてに をつけてください。

交通実験

- 1. まちなか循環バス「ポンチョ(無料)」
- 2. 西口循環バス「100円バス」
- 3. レンタサイクル乗り捨て実験
- 4. 一方通行実験・歩行者天国
- 5. 循環バス一日フリー乗車券

販わい創出実験

- (集 う) 6. まちなかコンサート
- 7. チビッコおまつり広場
- 8. 福島フレンドパーク
- 9. いきいき福島元気UPフェスタ2007
- 10. 平成福島座等
- (商 う) 1.1. パセオワゴンセール
- 1.2. 農産物フェア(青空市)
- 1.3. 商店街朝市
- 1.4. 福島城下うまいもの市
- 1.5. 県北うまいもの市
- 1.6. こらっせ夢ばざーる
- 1.7. 平成稲荷市
- 1.8. 商店街逸品ブース
- (歩 く) 1.9. まち歩きマップ
- 2.0. トイレ貸します
- 2.1. スタンプラリー
- 2.2. 親子まちなか探検隊
- 2.3. まちなか歴史ウォーキングラリー等
- (その他) 2.4. まちなか総合案内所(休憩、キッズサロン)
- 2.5. まちなかサポーター
- 2.6. まちづくりセミナー
- 2.7. 街なかUD調査

問2-2. 「こらんしょ まちなか!」での取り組みについて、記入願います。

まちなかへ行った日時：(月 日 時ころ)

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

次のページも、ご協力下さい。

問3 . 福島市のまちなかについてご意見をお書きください。

問3 - 1 . 道路に関すること

記載例

・（駅前通り）歩道は広くて良いが、自転車が混合され危なくて歩けない。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

問3 - 2 . バスに関すること

記載例

・（車両）低床式バスは安全で便利だが、車いすでの利用ができない。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

問3 -3 .公共施設、休憩所、トイレ、建物等に関すること。

記載例

・（トイレ）車椅子で利用できるトイレが少なく、位置の情報もない。

問3 -4 .その他、イベントやまちづくりに関すること何でも結構です。

ご協力ありがとうございました。

本書に書ききれない場合は、追加していただいて結構です。

なお、本アンケートで不明な点ございましたら、下記までお問い合わせください。

（福島県商工労働部商工総務領域商業まちづくりグループ 鈴木主査 電話 024-521-7916）

ユニバーサルデザイン（UD）トイレ

近年、車椅子利用者を念頭において設計されていたトイレが、高齢者や子ども連れ、オストメイト装着者等、バリアフリーからUDへと移行している。

UD化されたトイレとは、L字手すりと羽上げ手すりの2本と背もたれ、ベビーチェア・ベビーベッド、オストメイト洗浄シンク等が装備され、肢体不自由者のための折りたたみベッドまでがあるトイレ。

ドアの開閉ボタンや便器の洗浄ボタン、非常コールといった各種のボタン類をはじめ、ペーパー汚物入れ、手洗いシンク、鏡、荷物棚などの付帯設備も配置されている。